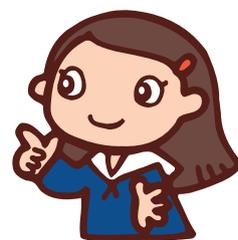


子宮頸がん予防ワクチン 接種を受けましょう



中学1年生から高校1年生のお子様をお持ちの保護者のみなさん、この年齢に相当する女子は、子宮頸がん予防ワクチン接種を無料※で受けられるようになりました。

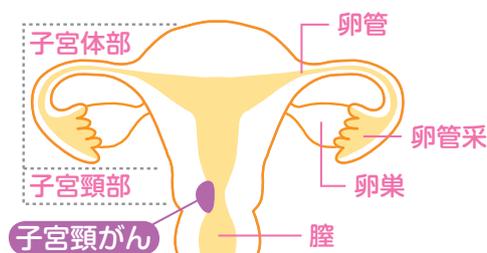


※開始時期は、お住まいの市町村にお問い合わせ下さい。

★ 子宮頸がん

子宮頸がんは、子宮の入り口付近にできるがんです。日本では毎年約 8,500 人が発症し、約 2,500 人がこの病気で亡くなっています。また、近年、20～30 歳代の子宮頸がんが増えています。

(平成 20 年人口動態統計)



★ 子宮頸がんの原因

子宮頸がんの原因は、HPV（ヒト・パピローマウイルス）というウイルスの感染です。HPVは、性行為により感染するウイルスで、多くの女性が感染する、ありふれたウイルスです。HPVに感染すると、1,000人に1人～3人が子宮頸がんになります。

子宮頸がんは、唯一ワクチン接種により予防が可能ながんです。平成21年12月から子宮頸がん予防のためのワクチンが接種可能となりました。

★ 子宮頸がん予防ワクチン接種方法

- 接種回数は、合計3回です。ワクチン0.5mlを、肩（上腕三角筋部）に筋肉注射します。
- 接種時期は、1回目の1ヶ月後に2回目、6ヶ月後に3回目を接種します。
- 予防効果は接種後20年と推定されていますが、効果期間については調査継続中です。

★ 予防接種の費用

一般に、子宮頸がん予防ワクチン接種を受けるには、5万円程度の費用がかかります。しかし、中学1年生から高校1年生に相当する年齢の女子は、市町村・県から通常かかる費用の全部の助成を受けることができます。費用や接種を受ける方法については、お住まいの市町村にお問い合わせ下さい。

子宮頸がん予防ワクチンに関する Q & A

Q 子宮頸がんは、どうすれば予防できるの？

A 子宮頸がんの主な原因は、HPV（ヒト・パピローマウイルス）というウイルスの感染です。自然感染では、十分な免疫が得られず、繰り返し感染してしまいます。感染しないために、子宮頸がん予防ワクチン接種が有効です。

Q ワクチン接種をすれば一生子宮頸がんにならないの？

A HPVは、100種類近くあり、そのうち10数種類が子宮頸がんと関係があります。ワクチンで子宮頸がんの原因の多くを占めるHPV16型とHPV18型の感染を防ぐことができます。ただ、このワクチンは全ての発がん性HPVの感染を防ぐことができません。子宮頸がんを完全に防ぐためには、子宮頸がんワクチンの接種だけでなく、定期的に子宮頸がん検診を受けることが大切です。ワクチン接種後も、20歳になれば、1～2年に1度は子宮頸がん検診を受けるようにしましょう。



Q 子宮頸がん予防ワクチンは希望すれば誰でも受けられますか？

A このワクチンの接種対象は 10 歳以上の女性です。（無料になるのは中学 1 年生から高校 1 年生相当の女子です。）

Q このワクチンで子宮頸がんやその前の段階（前がん病変）を治すことはできないの？

A HPV ワクチンは、すでに感染している HPV を排除したり、すでに起こっている子宮頸部の前がん病変やがん細胞を治す効果はなく、あくまで接種後の HPV 感染を防ぐものです。

Q 子宮頸がん予防ワクチンの副反応は？

A 他の一般的なワクチン同様、接種した後には、注射した部分が痛んだり、赤く腫れたり、痒みを感じることがあります。全身的な副反応としては、疲労感や頭痛、吐き気、下痢、腹痛などがあらわれることがあります。なお重い副反応として、まれにショック等が認められることがありますが、これは他のワクチンでも同様で、子宮頸がん予防ワクチンが特別に副反応の頻度が高いということはありません。